

福島県PTA連合会会報  
第47号\_H10.12.10

# P T A ふ く し ま

## 第 47 号

福島県 P T A 連合会

編集/調査広報委員会

印刷/泉印刷所

## 収穫の よろこび

各学校・単位PTAでは、この秋多くの収穫があったことでしょう。形に残ったものと共に、心の育ちについても確かめ合いたいものです。

安達・白岩小学校



## 喜多方・塩川大会を

### ふりかえって



大会実行委員長 大関 義一

十月二十一日、二十二日の二日間におたり、第四十七回県PTA大会喜多方・塩川大会を開催しましたところ、県内各地より二千三百余名の参加をいただき、盛会裡に終了できましたこと、実行委員会を代表いたしました心より厚く御礼申し上げます。更に本大会の運営にあたり、ご協力、ご支援を賜りました関係諸機関の皆様重ねて厚く御礼申し上げます。

さて本年五月に実行委員長を受けるに際し、私どもは次の点を確認いたしました。喜多方・塩川大会では会場が公共施設だけという状況をふまえ、会場（椅子並べ）が大変だが、誠意あるおもてなしをすることにより、「心あたたまる大会」にしたい、更にこの不況のなか協賛金集めは止め、皆様の参加だけで運営したいという二点でありました。そのため私は、実行委員会のたびに、「無駄を省く運営、創意工夫による運営」を実行委員の皆様をお願いしてまいりました。実行委員の皆様には大変ご

迷惑とご苦労をおかけしましたが、皆様のご協力、ご支援により所期の目的は達成されたものと考えております。

更に全体会当日に速報として配られる「分科会報告」は、あまり意味がないとの結論に達し、後日、記念講演の石堂常世先生の講演記録と共に分科会報告として、参加された会員の皆様に送付する予定です。

一つ気がかりだったことは、全体会会場の体育館の音響設備が十分でなく、二階席の皆様にはお聞きとりにくかったことです。配慮したつもりでしたが、ご迷惑をおかけしましたこと、この場をかりまして深くお詫び申し上げます。

最後に、私共に寄せられましたご友情を次年度開催地の相馬連PTAの皆様にもお寄せいただき、相馬大会のご盛會と県内各単位PTAの益々のご発展、会員皆様のご健康を祈念いたし、実行委員会を代表して御礼いたします。

県P連スローガン 「語り合い 分かり合い 信頼関係を」

# 県連P研究大会に参加して

喜多方二小PTA会長

後藤 學

十月二十一・二十二日に喜多方市と塩川町にて、第47回福島県PTA研究大会が開催されました。

私は今大会の運営委員長として参加しました。六月から大会実行委員長、事務局、そして各委員会と連携を取りながら準備を進めてきたわけですが、なにするこのよう

な大会の役割を担うのは初めてのことですので、大会の全体像をつかむのに時間がかかりました。そして現在、大会も無事終えて一安心しているところです。今までの大会の実績を踏まえて、大会そのもののあり方も少しずつ変わってきているようですし、成果も着実にあげてきたと言えます。

今大会に参加して感じたことは、大人社会の価値観が問われているということとです。いまの社会状況を見ると閉塞感が漂い、心の規範も失ってしまったかのようです。本当に教育を受けてきたのかというような事件も起こっています。

子供社会に様々な問題が起こっているのは、大人社会の投影としての現れではないでしょうか。心の教育が大切といいますが、どうして子供に伝えることができるので

しょうか。教育を見直すということとは、社会全体が価値観の軌道修正をするということが先決のような気がします。この点を棚上げして教育の変革といっても無意味となってしまうでしょう。

教育全体の見直しは、教育界に携わる人々は真摯に取り組まなくてはならないのはもちろん、地域の人々までも取り込んでいくことが重要だと考えます。



桑折町立伊達崎小PTA会長

大波 敏子

「希望の分科会を選び、発表を聞き、助言の先生に指導を受け、活動の参考に……」と今まで参加していた研究大会でしたが、今年は、提言者の立場になってしまい、

いつもとは少し違った気持ちでの大会参加になりました。

提言自体は、限られた時間の中でのので、思ったほど多くを伝えることはできなかったのですが、その機会を与えていただいたおかげで、大会当日に至るまで、これまでよりもとても多く、子供のことで、地域のことや学校のことを見つめ、考えることができましたし、また、日頃のPTA活動を何度も振り返ることができたので、本当によかったと思っています。

「教育力＝共育力」と、この指導を受けた時から、私はこれを座右の銘(?)のように思っています。もちろん、今大会もその気持ちで参加しました。家庭、学校、地域社会がそれぞれの役割を認識し、「共に育とう」と考え生きていけば、連携もうまく図れ、心の教育だってうまくいくと思うのです。二日間、「共に育とう」と時間を共有できた皆さんと情報交換、意見交換ができ、大変有意義でした。また、「コミュニケーションは大切」と改めて思っていました。

今回学んだ貴重な内容は、単Pに合うような形で受け入れ、これからの活動につなげていきたいと考えています。終わりに、今大会、実行委員の皆様にお世話になりました。素晴らしい大会をありがとうございました。



相馬市立中村一中PTA会長

岩崎 和夫

私にとっては三度目の大会参加ですが、今回は明年相馬で開催される、東北大会及び県大会の視察も兼ねているので、どちらかというと担当分野での情報収集の方面に重きを置き勝ちでした。相馬から参加した関係者は、皆同じ状況だったと思います。

実をいうとこの大会に参加するに先立ち、私達相馬の関係者十数名は県内各地区の代表と共に、山形県天童市で行われた、「第三十回東北ブロック研究大会天童・村山大会」に参加し、一応の視察を終えて来ました。しかし、この大会は地の利環境が他に勝り、私達が参考にするにはすべてにわたって恵まれた状況にあり、前例に倣って運営云々という訳にはいかない、

というのが正直な感想でした。そこで今回の喜多方・塩川大会に期待をかけたのですが、案に違わず、各分野において大いに参考になり、得るところが多かったです。また、本大会の各委員会の皆様には私達の疑問や質問に丁寧に答えて頂き、同じPTA会員としての連帯感を強く感じました。今回お世話になった各委員会の役員係員の方々に、改めて御礼申し上げます。来年は相馬の地で開催されます。

しかもメイン大会を「第三十一回東北ブロック研究大会」とし、併せて第四十八回福島県PTA研究大会となります。期日は平成十一年九月十・十一日、県内はもとより五県一市の多数の会員の皆様をお迎えするのに本大会をよきお手本として、準備に邁進いたしますので、明年の「相馬大会」には是非御期待下さるようお願い申し上げます。



### 神戸レポート

福島県P連副会長  
網代智盟

八月二十一、二十二日、あの大地震から三年半、まだ心の痛手は残っているようですが、都市の景観は立派に復興した神戸市での日本PTA大会に参加いたしました。

頂いた大会資料の中には、市内の小中学生が寄せてくれた歓迎の手紙が六通添えられ、震災の様子や感謝の言葉が綴られておりました。神戸の人達の復興を支援された皆さんへのメッセージ「ありがとうK O B Eから」の心を強く感じることができました。

「21世紀へ、想像豊かな夢を」の大会スローガンのもと、組織運営の研究協議会では活発な意見交換がなされ、PTAの組織運営上の様々な工夫や家庭と学校の連携



の在り方、地域ぐるみの教育環境の改善など、新しいPTA活動への取り組みについてのアンケートの結果をもとに話し合いがなされました。

その中で、特に興味があったのは、PTA

会員のみなならず、O・B、O・Gや地域の人々の学校ボランティア協力の実践例や、学校教育の中での担当教員と地域ボランティアが連携した教育の実践例等でありました。

現在進められている教育改革の動きの中で、PTAも学校教育に積極的に関わる必要があるし、PTAの貢献なしには今の教育改革は成功しないことが感じられた研究協議会でした。

### 天童・村山レポート

福島県P連母親委員  
栗原昭子

今年のPTA東北大会は、山形県天童市・村山市で行われました。東北大会への参加は、数年前の福島開催の時に次いで、二回目でした。いつも感動させられるのは、大勢の熱心な参加者と、迎え受ける当番県の方々のもてなしです。会場づくりや、諸連絡の仕方など、なかなか気持ちが届もってうれいものでした。



「家族と現代社会」をテーマとした、第7分科会に参加いたしました。他の分科会と違い、バズセッション方式で、熱気あふれる討議がたくさんのテーブルで繰り広げられました。

この分科会への参加希望者は、予定を大幅に上回って、ようやく会場に収容したほどで、その熱心さにも驚かされました。この分科会は、初めて母親委員会のみでの運営をまかされたとのこと、山形県P連の母親委員のみなさんは、本当にはりきっていらつしやいました。

父親と母親が一つのテーブルについて話し合いができる基礎が、この第7分科会によって確立できたように思いました。母親委員会が最も目指していたものだからです。

この流れは、来年度は福島県で引き継がなければなりません。参加して良かったという思いと、来年への希望を胸にしまつて、天童をあとにしました。

### 母親セミナーレポート

福島県P連母親委員  
坂上よし子

会津各地区からの参加、初めての参加者が多い中で、セミナーが始まりました。

私自身、第十五回目と今回で二回目の参加でしたが、前回と違い今回は主催する側の立場での参加で、これまでとは違った体験をすることができました。

はじめ、講師の先生から、会議の進め方等についての説明があり、講義とバズセッションのふた通りの話し合いが進められました。

短い時間であったにもかかわらず、皆さんの意見交換がなされ、とても有意義なセミナーであったと思います。

年一回の開催、参加される方も毎年違う方が多いと思われませんが、ここで学んだことを、各単Pに持ち帰り、PTA活動に生かして頂けたら、セミナー開催の目的が達成されるのではないのでしょうか。

もつと参加人数を増やしてほしいという声もありますが、バズセッションの方式をとるとすれば、現在の人数が適正かと思われず、個人的な意見としては、もつと会津地区としての母親セミナーの回数を増やしていただけたらと思います。こうした機会を通して、母親としてPTAのトップに立

### 小・中学校別懇談会

去る六月二十六日、「第六回県PTA小・中別学校懇談会」が、県青少年会館で開催されました。

各地域・PTAの抱える問題、また、活動の実施について全県的な視野の中での情報交換・研修が小・中別に行われました。

各地域代表の理事による活発な協議がなされ、助言者の適切なアドバイスを頂き有意義な会でした。

◎懇談テーマ  
地域の現況に応じたPTA活動の現状と家庭及び地域の教育の問題、また、地域社会の諸団体との連携の実状と問題点を探る。

- ◎小学校懇談の視点
  - ・「子育て」の進め方
  - ・父親のPTA活動への参加等
- ◎中学校懇談テーマ
  - ・進路と親、PTAの関わり
  - ・子供理解等



### 晴れの表彰

## 優秀PTA表彰

◆優良PTA文部大臣表彰

○双葉中学校父母と教師の会  
○大森小学校PTA (福島)

◆PTA活動振興功労者文部大臣表彰

山岸 清 (福島)  
小林 英治 (二本松)  
先崎 正長 (船引)

◆日本PTA全国協議会会長表彰 (団体表彰)

○水保小学校父母と教師の会 (福島)

○都路第一中学校父母と教師の会 (田村)

○植田小学校父母と教師の会 (いわき)

### 個人表彰

山岸 清 (県P連前会長)  
石澤 孝 (同 前副会長)  
小沼清一郎 (同 前副会長)  
森 繁夫 (同 前副会長)  
正木全道 (同 前副会長)  
藤田裕子 (同 前母親委員長)

### 感謝状受賞

(日P創立50周年記念)  
近野輝雄 (元県P理事 福島)  
大泉明雄 (前県P理事 達南)  
松本一彦 (元県P理事 大沼)  
室井伊久男 (元県P理事 南会津)  
若菜金一郎 (前県P理事 耶麻)  
猪股純一 (前県P理事 南会津)

## 親と子、教師と親の和

《会津若松市立赤井小学校PTA》

従来、学校(P

TA)には母親がというのが一般的な傾向でしたが、現在、本校の会員の方々を見てみると、両親でPTA活動に参加される方が多く見受けられました。会員全員参加による活動の推進という理想を現実のものにするためには、PTA活動の参加を母親だけでなく両親へ、さらには、祖父母まで。また、地域社会にまで広がっていくことが必要になるのではないのでしょうか。

会員相互の連絡調整を図り、年三、四回の会報の発行を通してPTA活動の活性化を目指す総務委員会。研修活動(研修旅行、秋にはいも煮会他リクリエーション、教養講座)等を通して教養を高め、連携を基盤とし児童及び会員の安全確保(交通安全指導等、自転車点検、危険箇所への立て看板設置、そして先生方や会員全員で取得した救命講習修了証)のための活動を推進している補導委員会。学校



環境の整美活動(花壇整美、校舎周辺の除草作業、廃品回収)等、学校が豊かな学習活動を展開できるように援助している環境厚生委員会。以上四つの委員会がPTA活動を通して親と子、教師と親達の間関係が信頼と和をもって結ばれるということは素晴らしいことだと思えます。

今年度で本校も閉校となり、湊町地区の四校(赤井小・共和小・原小・双潟小)が統合となります。未来を担う子供達の幸せを願い、新たなPTA活動に向けて努力しなければならぬと思えます。

## 地域との連携のもとに

《福島市立月輪小学校PTA》

本校は福島市の東北部の田園地帯にあり、児童数百八十八名、PTA会員数百三十五名の小規模校です。学校創立百二十四年の歴史と伝統に支えられた地域ですが、ここ数年は新興住宅地が増えてきています。

本校父母と教師の会は学校との連携を十分に図り、今までに、

学校創立百周年事業や百二十周年事業を盛大に行ってきました。会の組織は本部を核にして教養、厚生、広報、環境、健全育成の五部門よりなっており、それぞれの部会が活発に自主的に各種活動を繰り広げています。特筆すべき事業は「月の輪夏祭り」の開催です。今年度は八月八日(土)に開催しましたが、第三回を迎えました。この行事は新旧の地域の親睦を図るために設けら

# 訪問

れたもので、各種模擬店が軒を並べ、ゲームコーナー、バザーコーナーが設けられ、櫓を組んでの盆踊り、花火と地区を挙げて盛大に開催されました。このイベントを通して地域住民の連携が保たれ、地域の活性化が図られています。

また、特色のある組織として本校が文部省指定読書指導研究、県学校図書館研究大会を開催した折に設けられたPTA読書支援係があります。これは各学年の係が毎月一回、市立図書館から子どもたちのために本を借りて学級に備えておくもので、本離れが叫ばれる昨今、本校では子どもたちが大いに読書に親しみ効果が上がっている活動です。

今年度は県P連の団体表彰も受けこれを糧に、さらに、PTA活動を充実させていきたいと思えます。



面川正彦(前県P理事 岩瀬)  
 小林マサ子(前県P母親委員 会津若松)  
 酒井公枝(前県P母親委員 いわき)  
 小沼ヤチ代(元県P母親委員 会津若松)  
 佐藤利郎(元双葉地区P連事務局長)  
 須賀紀一(前安達地区P連事務局長)  
 石塚達郎(元郡山市P連事務局長)  
 松本久芳(いわき市P連事務局長)  
 小平光雄(県P連事務部長)

**東北PTA連絡協議会表彰**

〈感謝状〉

山岸 清

〈団体表彰〉

新殿小学校PTA (安達)

下太田小学校PTA (安達)

金透小学校父母と先生の会 (郡山)

明和中学校父母と教師の会 (南会津)

大熊中学校PTA (相双)

〈個人表彰〉

川田昌利(県P連前副会長)

若菜金一郎

面川正彦

猪股純一

小林マサ子

須賀紀一

湯田耕衛(前南会津P連事務局長)

**福島県PTA連合会会長表彰**

〈個人感謝状〉 三十八名

〈団体表彰〉 三十六団体

〈個人表彰〉 百四名

※県表彰については、「第47回福島県PTA研究大会喜多方・塩川大会」要項に載せてあります。

**地域住民の大きな協力に  
支えられたPTA活動**

《矢吹町立三神小学校PTA》

本校は福島県の南部に位置し、白河市と郡山市のほぼ中間にある純農村地域です。児童数二二一名、PTA会員数一四二名の小規模・僻地校ながら特色ある活動が展開されています。

第一は、今年で六回目を迎える廃品回収事業です。三神地区内の全家庭に呼びかけて協力をお願いしています。すでに地域に浸透し一年分のビン・アルミ缶をこの日のためにためておく家庭も多数見られ、十三〜十五万円の収益金があります。このお金は、鼓笛の楽器充実等に使用され運動会を通して保護者に披露しています。

第二は、教育講演会です。昭和六十一年から開催されているということから教育に対する熱心さが伺えます。今年で十一回です。子育てやPTA活動についての話を聞くことで会員の意識の高揚を図ってきました。今年も、県大会で養護教育について発表する機会を得ましたのでそれに関連し、光南高校講師戸田先生(町内在住)に「障害者の自立」に関する講演をしていただく予定です。

第三は、外郭団体の協力です。「地域の子どもは地域住民みんな育てる」という考えのもと、三神地区健全育成協議会、

三神スポーツ・文化後援会という組織があります。金銭的なバックアップばかりではなく、「健全育成凧揚げ大会」「非行防止標語募集」などのユニークな事業を開催しています。

今後は、これらの特色ある事業がマンネリ化しないように工夫や改善を加えていきたいと考えています。



**単P**

**地域と連携した  
PTA活動を目指して**

《岩瀬村立岩瀬中学校PTA》

本校は、須賀川市の西部に隣接し、「岩瀬きゅうり」で県内外に知られた岩瀬村の中学校

です。

農耕地帯ではありませんが、専業農家は少なく、隣接市町村の職場に勤務する兼業農家が多くなっています。また、ニュータウンの造成に伴って、農業に従事していない保護者も増えつつあります。

こうしたなか、村内で唯一の中学校として、これからの岩瀬村を背負って立つ人材の育成という面での期待が大きいのも事実です。

そのためPTA活動への参加も積極的で、特に父親の参加が多いのが特徴です。年二回の奉仕作業(環境整備活動)では、多くの方が機械やトラックなどを持ち込み、率先して活動して頂いています。

また、PTA各専門部の委員の委嘱の仕方にも特色があります。本校PTAの専門部は、方部長と呼ばれる各通学区(16区)ごとに方部長から委任された二〜八名の保護者で構成されています。その中で、方部長

は補導部に所属し、他の方部長が厚生設備・教養・広報の各専門部に所属します。これにより、専門部の部員が特定の地区に偏ることなく配置され、専門部ごとの活動や本会の活動の際に大きく役立っています。

二期に入り、本村でも都市部同様に、不審者による声掛けや不審車両による追尾等の問題が発生しました。幸い大事には至りませんでした。PTAとしても何らかの対処をすべく、すぐに方部長の方に集まって頂きました。そして、方部長の方を通して村内の全家庭へのチラシの配付と被害の未然防止のための避難所としての協力依頼等、速やかな対処をして頂くことができました。

このように、これからのPTA活動は、単に校内や生徒の家庭だけでなく、地域の協力も得ながら進めていくことが大切です。本会でも村内の二つの小学校や幼稚園も含めた連携を密にして、地域とともに歩むPTA活動を目指しています。

# 来年度から安全互助会の募集コースが変わります

安全互助委員会の検討をふまえ、去る10月の理事会で検討の結果、平成11年度から次のようになりますので、ご理解いただき引き続きご加入くださいますようお願いいたします。未加入の単位PTAにあってはぜひ加入ください。

### 【現行のコースと補償内容】

- ◆ 学童（幼・小・中学生）の補償  
登下校時・学校管理下外（家庭内等）でおきたケガ
  - ◆ P T A 会員の補償  
会員が P T A 行事に参加しているときにおきたケガ
  - ◆ 学童の賠償事故の補償  
他人の身体や物に損害を与え、法的な責任を負った場合
  - ◆ P T A の賠償事故の補償  
P T A 主催行事での P T A 側のミスでの事故
- } **傷 害 補 償**  
(A-I・II、B-I・II、Cの5コース)
- } **損 害 賠 償 補 償**  
(A-II、B-II、Cの5コース)

### 【改訂のコースと補償内容】

傷害補償だけのコース（A-I、B-I）を削除し、全て損害賠償付きとしA・B・Cの3コースとする。

損害賠償事故の件数は、相対的には少ないが「もしも」の場合を考慮して、また、事故が発生した場合には高額な補償が求められるケースが多い現状からみて、賠償付とすることが現状に適応できるという理由からです。

なお、詳しくは1月の加入ご案内でお知らせします。

## 交通事故防止を

- ◆ 飲酒運転の追放
- ◆ 夜間の交通事故防止
- ◆ 交差点の交通マナーアップ
- ◆ スピードをひかえめに

「もういくつ寝るとお正月、お正月には凧あげて……」私ども年輩には懐かしい唄であり、生活そのものでした。

昨今の子ども達にこのような心情を求めることは、時代錯誤でしょうか。物質的な文明がすばらしく発達しましたが、それに伴って精神的な文明も変容したと言えるでしょうか。

子ども達に、私ども大人が、今こそ、精神的な豊かさを実感させることが問われているように考えます。

よいお正月をお迎えください。

### 編集後記

## 事故請求件数

(10月末現在)

月	傷 害 (父母)	賠 責 (父母)
4	101 ( 3)	2 ( 0)
5	112 ( 5)	3 ( 0)
6	284 ( 4)	5 ( 0)
7	343 ( 19)	11 ( 2)
8	133 ( 14)	7 ( 0)
9	196 ( 30)	4 ( 2)
10	410 ( 37)	10 ( 0)
計	1,579 (112)	42 ( 4)

※ 学童死亡件数……9 (昨年比4増)

《内 訳》

小 学 生 6名    中 学 生 2名  
 幼 稚 園 児 1名

《原 因》

交 通 事 故 死 6名    事 故 死 2名  
 水 難 事 故 死 1名

## 福島県PTA安全互助会

TEL・FAX 024-545-5982

## 《提携損保》 共栄火災海上保険相互会社

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507

FAX 024-523-3509